

商業

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
商業	ビジネス法規	3	3年次・M群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
ビジネス法規（実教出版）		ビジネス法規 準拠問題集		・商業系列の履修者が望ましい。 ・販売職、事務職を希望する生徒が対象である。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点
	1学期	第1章 法の概要 第2章 権利・義務と財産権 第3章 財産権の変動	4 5 6 7	・経済活動の円滑な流れは法によって行われていることを理解できるようにする。 ・法の分類、効力、適用と解釈など法を学ぶための基本的なことがらを教えるようにする。 ・権利・義務の主体としての自然人について権利能力・行為能力という用語の理解を含め自然人の概観し、制限能力者制度の理解できるようにする。 ・財産権の変動、権利の発生・変更・消滅はほとんど契約による。その契約についての理解を求め、「経済活動と法」学習の中核的部分の学習であることを念頭に理解できるようにする。	1 2 3 1 2 3
	2学期	第4章 企業活動と法規 第5章 企業責任と法規	9 10 11 12	・商人概念を規定する商行為についてその種類を明確に理解できるようにする。 ・株式と社債の差異・異同を一覧表にまとめさせて学習する。 ・手形・小切手について法律上の要件と制度について理解できるようにする。 ・市民生活を送るうえで欠くことのできない法律知識について、特に我々の生活をも守る法律の存在について学習する。 ・消費者教育の中核として、その信用にかかわる諸問題がある。そのいろいろな態様と消費者としての心構えを理解できるようにする。 ・人の社会的存在からして将来必ず働くことが想定される。その労働の提供に関する民法上の諸規定について理解できるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	3 学 期	第6章 紛争の解決と予防 第7章 税と法規	1 2 3	・紛争の解決方法として和解・調停・仲裁および民事訴訟のあることを学習し、それぞれの制度の特色を理解できるようにする。 ・確定判決の国家権力による実現としての強制執行のあることを理解できるようにする。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○社会生活を営む上で関連の深い必要な法規や、具体的な経済事象を取り上げて理解を深めているか。	○具体的な経済事象を通して、法文の解釈や適用にのみこだわらずに、法的に思考し判断し創意工夫しているか。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○日常的に接する身近な事柄を取り上げ、法との結びつきを考えてビジネス活動における法について取り組もうとしているか。	
	手 段	・演習問題 ・定期考査 ・新聞の切り取りと商業六法の関連性	・定期考査 ・新聞の切り取り	・授業中の態度の観察 ・提出物の提出状況	
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・考査は年4回実施。各回とも考査点70%、平常点30%で成績を評価する。 ・平常点は、授業態度、提出物の状況、演習問題の内容である。		
学習上の留意点		・教科書を読むなどの予習をし、出てくる法律は商業六法で調べておこう。 ・教科書に関連した法律は新聞の切り取りを収集しよう。 ・商業経済検定 1級を取得しよう。			